

1. 研究の目的

2 研究の方法

①木に煮えつく「ツル」の正体を調べる。

②「クズ」の体のつくりを根からほり上げて調べる。

③「クズ」の根にデンプンがくまれるか確かめ、デンプンの使い方を調べる。

④ クズが木にからみつくわけをグズの体のつくりや根のデザインをもとに考える。

⑤木の成長を守り人にとっても役に立つ木の活用方法を考える。

3. 研究の結果と考察

木にからみつく「クズ」を調べてみると、次のようなことがわかった。

① ツルの取手が強い。食料が乏しい。戦争で日本や中国、韓国、アジア等多くの国で自然に育ち成長したものが少いために、国におしは、樺太、朝鮮、侵略の外来種に指定され、駆除の対象にされている。日本では、昔はアサツルを毛刈りに使ったりはくす輪を取り出し、葉や花の材料にしていた。

② クズの体はこの植物と同じ根生する葉から作られる15mのフェンスにからみついていて、ゴクラを標本にすると「根長70cm、重100g。ツル一本の長さ6mくらい、1本に分かれ伸びていたの、約50mあった。」葉は1日あたりに4枚弱、約4m²あった。2~3m位の木は全体をおおいかくすことが出来るツルは葉の量である。



(全体のように)

③ 「ワズの根15cmにディランがくちやい金まるるが、掘りてみたに根を細かく切り、ハンマーでたたいて目のあらい袋に水の中に入れてみた。時間をおいて木にたおた白いものを集めてかわかすと約2足のディランが取れた。うまくやるものとなく、土のディランが取れなと思う。

③クズの根からデンプンを取りだす

① クズの根をきれいに洗う

根を切り取る(105g)

②  根を切り取る(1)

③ 根を細かくする

④ 根をハンマーで柔らかくする

④  根をハンマーで柔らかくする。

⑤ ネットに入れ水の中でもむ

⑤ クズをつぶした液を「ろ

紙」でこし、デンプンを

取り出す

堤 → テンブン

根 → テンナン
1.05g 2g

105g 25

クズの根には、

デンプンがためられていた。

根からとり出した
デンプン(くず粉)

④ ワケが木におおいかかると、ワケの体や根のデンプンから養分を、ワケはマミ科のワケ草の葉が当てるデンプンがひきよめ、ひきたデンプンはツルや葉を動かす力と根に送られる。まわりの木より根が早いので、くさんの光を受けようと、木にかかりつゝ木をおおつゝつに葉をひける。かかりつゝれた木には光が当たらずに弱り、ついに枯れる。



⑤ 木の成長をより人にとっても役に立つグズの活用方法を考えてみる昔 日本ではグズのツルを毛氈の代わり
に使い、グズの根からは薬(真根薬、風邪薬)やくす粉(お菓子の材料)などに活用していたそうだが(かし
現代ではグズのツルや根を使う人はほとんどいない)自分たちの地域で、グズの根やツルを活用する方
法や仕組みを作ればグズは役に立つ植物のように利用されると思う。グズの利用が盛んになると伸び放題に放
置されることも減り、グズにからみつかる木も減っていくことになるから、エス・エムでグズを利用すると木にもグズに
も優しいことだ。



く 9
ために

4. 研究のまとめ くすん くすん くすん

クズの研究をしてみ、植物は成長のために必要な日光を手に入れるために葉や茎(か)を伸ばしていること、ツツカサツクスは木の植物で、表が黒く、木などにからみつく、木は水や塩分がなくなると葉を落とすからみつく木は弱さからみつけてしまふ。自分(ら)も(周)でも、クスにからみつく木や電柱、クスを切った土地などはよく見られるし、クスは木で、葉や果実の材料にもなる。この特性を生かすような地域の取り組みを工夫すると、地産の木製品、役に立つ植物として「クス」を活用できると感じた。